

記事解説

平成23年10月31日
日本原子力研究開発機構

件名：「もんじゅ、研究に軸足、実用化「理解得られず」」

平成23年10月30日（日）共同通信

記事概要

「実証炉や実用炉の建設を目指す従来路線は「なかなか国民に理解してもらえない」との認識を示し、「もんじゅ」については）発電の実用化とは別の研究開発に軸足を示す方向性を明言した」旨の報道がなされた。

事実関係

一部、機構のスタンスに誤解を与える表現となっており、当該記事における機構の発言は以下のとおり。

- 高速増殖炉サイクル路線の実現に向けては、従来の単なる経済性や資源確保の観点からの必要性の説明のみならず、エネルギーセキュリティ等の観点からの議論を踏まえないと、国民のご理解は得られないのではないかと。
- 高速増殖炉の運用能力は国力向上のためにも必要である。
- 「もんじゅ、研究に軸足」は、これまでも研究開発炉としての活用を基本としているが、これを改めて述べたもの。
- 「もんじゅ」は原型炉としての役割を果たしていくことは勿論のこと、研究開発にも重点を置いて開発を進めていくべき。
- その意味でも「もんじゅ」は新しい技術を試す原子炉として活用していくことが日本のため、世界のためになるものと考えている。

機構の基本的考え方

「もんじゅ」を含む高速増殖炉の研究開発の在り方については、現在行われているエネルギー・環境会議や原子力委員会の場で議論されると認識しており、機構としても、「もんじゅ」を含む高速増殖炉開発の意義については現在も変わるものではないと考えており、そのような場で説明してまいりたい。